

令和6年度第2回狛江市立公民館運営審議会会議録

- 1 日 時 令和6年5月28日（火）午後6時30分～8時30分
- 2 場 所 中央公民館 第3会議室
- 3 出席者 齋藤謙一委員長、天野泰子委員、伊東達夫委員、内海貴美委員、設楽知委員、長岡智寿子委員、細谷明美委員
事務局（瀧川直樹公民館長、中川秀太郎主事）
- 4 欠席者 都築完副委員長、伊勢亀慎司委員
- 5 傍聴者 3名
- 6 資料 資料1 令和6年度（24期）委員名簿 <公表用>
資料2 令和6年度公民館事業評価シート（おはなし会）
資料3 にしがわらおはなし会について
資料4 にしがわらおはなし会 人数資料
資料5 にしがわらおはなし会 チラシ
資料6 にしがわらおはなし会 ご案内
資料7 ティーンズルームに関する検討課題
資料8 中高生向けアンケート案
資料9 令和6年度第一回公民館運営審議会会議録
その他 公民館だより第61号
その他 令和5年度成人学習事業チラシ一覧

7 議 題

（1）開会

- ①設楽委員に委嘱状を交付
- ②設楽委員から就任のあいさつ

（2）審議事項

- ①公民館事業評価（にしがわらおはなし会）について
資料2、3、4、5、6に基づき事務局より説明

委員長：事務局の説明に質問がある方はいるか。

委員：木曜日の参加者数が減少しているのはなぜか。

事務局：新型コロナウイルスが原因だと考えている。また、平日で人が来づらいということも関係しているのではないかと推測している。この点に関しては今年度の9月より開催日を調整して行うことになっている。

委員長：参加人数が0人となっているところは誰も来なかったということか。

事務局：そのとおりである。参加者がおらず、実施できなかった月もある。

委員長：平成31年度と比べると極端に人数が減少している。続けることも大事だが、何か対策は必要なのではないか。

委員：中央図書館でボランティアとしておはなし会に携わっているが、土日に開催すると参加者が集まりやすい。開催日時が大事なのではないか。

委員長：内容に関してはどうか。要望などは取り入れているのか。

委員：ニーズにこたえることは重要である。自分が読み聞かせを行う際には年齢層別に本を用意している。その他にも、紙芝居や工作、体操、クイズ等、子供が参加することができるようにすることで、場が盛り上がる。そういった工夫はできているのか。

事務局：工作や紙芝居は必ず月のプログラムに入っている。

委員長：プログラムに3～7歳向けとあるが、年齢差が大きく感じる。

委員：中央図書館では年齢別に行っており、実施する側としても選書が楽だと感じている。

事務局：今年度の9月からは対象年齢別に行う予定となっている。

委員：男女別に興味のある話題は異なる。恐竜の話題などは男女に共通して人気があると感じる。こういった男女に共通して興味を持ってもらえるような選書をすることも重要である。

委員：外に出て人と関わりながら本と触れ合う機会があることは貴重である。体を動かすなどのアクティビティを取り入れると盛り上がると思う。年齢に関しては、興味関心が変わってくる時期であることを考えると、差が大きいように感じる。

委員：以前イベントで参加者の子どもに紙芝居を読んでもらったことがある。子どもに参加できる工夫をすることもいいのではないか。実施側が読みたい本ではなく、子どもが読みたがる本を提供することが大事である。

委員長：34年間続いているということが、必ずしも良くない影響を与えている部分もあるのではないか。良かったことを継続しようとしていくうちに、受け手側と開きができてしまったのではないか。そういった意味でも事業評価で事業内容を見直すということは大事である。

委員：来ている人は分かると思うが、工作や体を動かすようなことをしていると

ということが「おはなし会」という名前では伝わりづらいと感じる。本を読み聞かせる以外にも様々な活動をしているということをアピールできないか。

委員長：補足として、公民館の図書室であることを活かして、ただ話を聞くだけでなく参加型にしていくべきである。親同士のつながりから、自主団体に発展していってもらえるようなアプローチも必要である。

委員：読み聞かせ体験ができるイベントなどもよいのではないか。

委員長：今までは司書の方が企画して実施していたかもしれないが、社会教育の考え方も取り入れた事業にした方が公民館としてはよいのではないか。

委員：このおはなし会は職員が実施しているのか。

事務局：そのとおりである。

委員：ボランティアなどもたまに導入することで新しい視点を取り入れられる可能性もある。

委員：ブックスタート事業には、文字が読めない赤ちゃんに対しても、本を介して保護者と子供が触れ合う狙いがある。年齢に関係なく、本を介した心の交流や、本を楽しむ機会になればよい。

委員長：では、評価を検討する。公民館側の評価の根拠を教えてください。

事務局：＜企画・計画性＞については、ご意見をいただいたとおり、長く継続している事業であり、なかなか新しいことができていないというところはあるが、プログラム等を担当職員が考えて行っており、そういった意味では前年同様であったということでB評価とさせていただいた。

委員長：利用団体との連携についてもっと取り入れるような企画、計画を取り入れていくとよいのではないか。また、9月から日程等を変えようとしていることは、自信をもって計画できていないということが読み取れる。そういった面をみて、現状維持はできていないのではないか。改善点を見つけて努力している面は認めるが、今回は、期待を込めてC評価ということはいかがか。

委員一同：異議なし。

委員長：＜周知＞については資料にあるようなチラシの作成や、広報を出しているということでB評価でいいのではないか。

委員一同：異議なし。

委員長：＜実施・運営＞についても、職員が行っており、場所に関しても公民館の幼児室を利用しているということで、問題ないと思う。現状のとおりB評価でいいのではないか。

委員一同：異議なし。

委員長：＜満足度＞については、正確なアンケートが取れておらず、好評であると言われても客観性がないように感じる。

委員：良い事業であれば、周りの人に紹介をするなど、人が減っていくということは起こらないのではないか。

委員長：この項目に関しては＜企画・計画性＞と表裏一体であると考えており、C評価でいいのではないか。

委員一同：異議なし。

委員：様々な形でアンケートを取ることが求められる。参加者が満足しているかどうかを客観的に知る必要があると思う。

委員長：＜達成度＞については、＜企画・計画性＞や＜満足度＞をみるとC評価がいいのではないかと思う。この評価を基に頑張ってもらいたい気持ちもあるが、職員の方たちの心を折ってしまうことにもつながりかねない。委員の意見をいただきたい。

委員：C評価の基準となる「あまり成果が出ていない」とは言えないため、B評価がいいのではないか。

委員長：新型コロナウイルス流行前と比べると参加者数が激減しているがどうか。

委員：まだ完全に収束したとは言えない上に、流行前とは生活様式が変わってしまい、気軽に外に出ることができなくなっているため、単純には比べられないのではないか。

委員長：ではB評価ということでよろしいか。

委員一同：異議なし。

委員：数値的な達成と、内容的な達成は分けて明確にしていくことが重要である。

委員：参加者の方が何を目的に来たかについても重要であると考えます。おはなし会以外の目的で来ても、おはなし会に興味を持って参加してもらえそうな状況になるとよい。

おはなし会事業の評価については委員の合議により以下のとおりとなる。

<企画・計画性>

公民館 B 公運審 C 全体 C

<周知>

公民館 B 公運審 B 全体 B

<実施・運営>

公民館 B 公運審 B 全体 B

<満足度>

公民館 B 公運審 C 全体 C

<達成度>

公民館 B 公運審 B 全体 B

総合評価は委員の合議により、以下のとおり

- ①なぜ参加者が減少しているのか、その理由を分析していただきたい。
- ②参加者のニーズに合った企画ができていないか見直していただきたい。
- ③参加型の行事や公民館利用団体とのコラボをより多く行っていただきたい。
- ④子供向けにも映像資料を活用したイベントなどを行うよう検討していただきたい。
- ⑤図書室から公民館での活動に興味を持ってもらえるような仕組み作りを検討していただきたい。

事務局：次回の事業評価は成人学習事業となる。参考として昨年度行ったチラシを配布したため、次回審議していただきたい。

②諮問事項について

資料7、8に基づき事務局より説明

委員：学校に送付するアンケートの対象に小学6年生を入れてはどうか。

委員：保護者としては、小学生が1人で二次元コードを読み取ることを快く思わないのではないかと。

事務局：今回は時間が迫っており、中学1年生に絞ってでも意見を取りたいと考えている。中学1年生であれば2年後にスペースを利用することができる。

委員：小学生が中学生になったら生活が変わることになるため、中学生の意見を聞くのが良いのではないかと。

委員長：このアンケートはどれ程度の回収率になると予想しているか。

委員：何も働きかけなければほとんど回収できないと思われる。狛江市の未来がかかっていると宿題にするか、1項目だけでも応えるように学校をサポートしてもらえれば、多く回収できるのではないかと考えている。

委員長：できる限り回答はして欲しいが、回答期限は7月中旬までにしたいと考え

ている。

事務局：校長会に話を通してから、余裕をもって6月末から7月上旬までの期限としたい。その場合は次回の審議会で途中経過をお知らせし、次々回の審議会で最終結果を報告する。

委員長：広報には掲載しないのか。

事務局：広報に掲載するためには1か月前に原稿を出さなくてはならず、間に合わなくなってしまうため、今回は見送る形とした。

委員長：アンケートの説明文が長く、中高生のやる気をそぐことになってしまわないか危惧している。回答欄についても多すぎると良くないのではないか。

委員：Q6の個人情報の記入欄は避けた方がよいのではないか。

事務局：この質問を削って、こちら側から声を掛けに行くという手も考えられる。

委員長：利用時間や公民館を知っているかという問も削り、質問項目を少なくした方がよいと考える。

委員：サウンドスタジオについては強調してもよいのではないか。大きな音を出したいという要望は出るだろうと考えている。

委員：駐車場やコンビニで帰りがけに集まっていることで苦情がよく出ているため、集まって話す場所が欲しいという要望も出るだろうと考えている。

事務局：回答例に追加する。今回いただいた意見を踏まえてアンケートを修正する。

次回開催日：令和6年6月25日（火）午後6時30分～

会 場：中央公民館 第3会議室